第221号

昭和医科大学横浜市北部病院

病院だより11月号

【巻頭言】 P1
【医学講座コーナー】 P2
【病院からのお知らせ】 P3
【ご意見・ご要望】【編集後記】 P4

【巻頭言】　～切れ目のない肺がん診療を目指して～



呼吸器外科
鈴木　浩介　准教授

2026年9月より、呼吸器センター 外科 准教授を拝命いたしました、鈴木浩介と申します。昭和大学（現・昭和医科大学）を卒業し、当院で初期臨床研修を終えた後、呼吸器センターに入局してから、早いもので20年の歳月が流れました。振り返れば、その歩みは決して一人で積み重ねてきたものではありません。呼吸器外科医として多くの患者さんの診療に携わる一方、新型コロナウイルス感染症の流行時には、一時、呼吸器外科の診療を離れ、感染管理室長として院内の感染対策にも従事させていただきました。

さまざまな経験を重ねることができたのは、ご指導いただいた諸先輩方をはじめ、同僚や後輩、当院で働くすべてのスタッフ、そして地域の皆様の支えがあってこそです。改めて、心より感謝申し上げます。

私が専門とする呼吸器外科で、現在、手術の対象として最も多い病気の一つが肺がんです。高齢化の影響もあり、肺がんの患者さんの数は増えていますが、その一方で、診断や治療は着実に進歩を重ねてきました。

私が医師になった頃と比べても、肺がん治療を取り巻く景色は大きく変わりました。薬物療法では、がんの遺伝子の特徴に応じた治療薬や、免疫の力を利用した治療薬など、多くの選択肢が生まれています。手術も、かつては胸を大きく切開する方法が中心でしたが、現在では胸腔鏡手術やロボット支援下手術など、より小さな傷で行う手術が広く行われるようになりました。こうした一つひとつの進歩の積み重ねが、今日の肺がん診療を形づくっています。

そして現在の肺がん診療では、手術だけ、薬物療法だけでは治療が完結しないことも多くなってきています。病気の進行度や患者さんの状態に応じて、手術、薬物療法、放射線治療など、さまざまな治療法の中から適切なものを選び、ときに組み合わせながら、一人ひとりに合った治療を組み立てていくことが、これまで以上に大切になっています。

当院の呼吸器センターは、呼吸器内科と呼吸器外科が同じ組織の中で協力して診療にあたっていることが大きな特徴です。呼吸器外科でも、胸腔鏡手術やロボット支援下手術に加え、薬物療法にも携わり、診断から治療、その後の経過まで一貫して患者さんを支える体制づくりを進めています。

今後も、内科と外科が互いの専門性を生かしながら、患者さんの治療の節目ごとに途切れることなく寄り添える医療を目指してまいります。そして、治療の選択肢がますます多様化する中で、一人ひとりにふさわしい治療のあり方をともに考えていくことのできる呼吸器センターであり続けられるよう、診療と研鑽を重ねてまいります。

引き続き、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

【医学講座コーナー】

「はしか」について

・はしか(麻疹:ましん)とは

はしかは、「麻疹ウイルス」によって起こる感染症で、発熱と全身の赤い発疹（ブツブツ）が特徴です。 感染力が極めて強く、同じ家庭に住んでいるとほぼ確実に感染します。命に関わることもある重い病気ですが、特効薬はありません。そのため、ワクチン接種（計2回）による予防が何よりも重要です。

・主な症状と経過

ウイルスに感染してから10～12日ほどの潜伏期間を経て、次のような経過をたどります。

・初期症状（はじめの3日間ほど）： 熱、咳、鼻水、目の充血（目が赤くなる）など、風邪によく似た症状が出ます。

・発疹期： 熱が一時的に少し下がった後、再び高熱が出るとともに、頭や首から全身へ赤い発疹が広がります。口の中（頬の裏側）に「白い小さな斑点」ができることもあります。

・【注意したいポイント】

・発疹が出る前が一番移りやすい：風邪との区別がつかない初期（熱が出る1日前～発熱後3日頃）に最も感染力が高いため、知らず知らずのうちに周りへ広げてしまう危険があります。

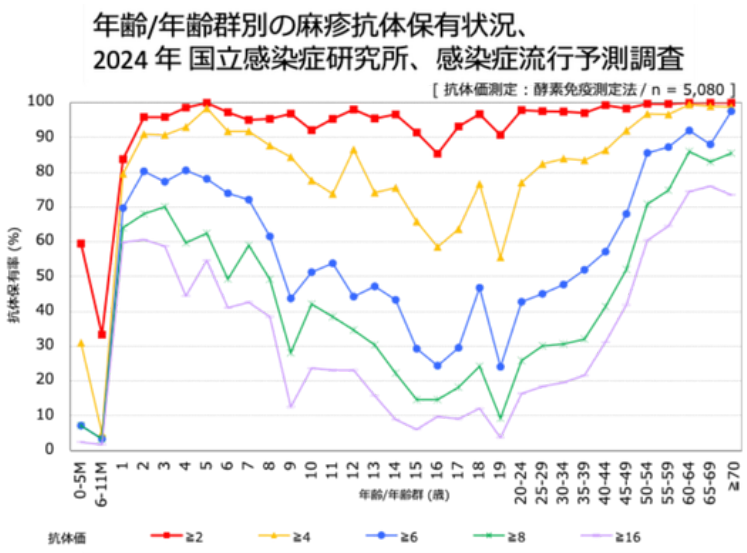
・軽い症状で済む場合（修飾麻疹）：過去にワクチンを接種したことがある場合などは、典型的な症状が出ず、軽度の熱と発疹だけで経過することがあります。熱と発疹が見られたら「ただの風邪」と油断せず注意が必要です。

・治療と合併症

現在、はしかを直接治す特効薬（抗ウイルス薬）はありません。安静にして、水分と栄養を摂りながら、熱を下げる薬や咳を和らげる薬を使う「症状に応じた治療（対症療法）」を行います。

合併症としては肺炎、脳炎、中耳炎、角膜炎などが知られており、重い後遺症が残ったり、先進国でも千~2千人に1人が亡くなることがあります。

・一番効果的な予防法：ワクチン接種





この図は、はしかに対する抗体（はしかを予防する力）を調べたものです。16以上あれば発症を予防できますが、一般的には4以上を陽性とし、重症になりにくくなります。2未満は抗体陰性で、はしかに罹りやすい状況です。

世代による免疫の違い：

・1歳・6歳（年長さん）：定期接種（MRワクチン）を受けるため、高い免疫を持っています。

・50歳以上：昔、自然にはしかにかかった人が多く、免疫を持っている人が大半です。

・10代～30代：ワクチン効果が低下し、免疫がやや下がっています。

・【今できるチェック＆アクション】

まずは、母子手帳を開き、「MRワクチン」または「麻疹ワクチン」を1歳以降に2回接種しているか確認してみましょう。 回数が不足している場合や確認できない場合は、抗体検査や追加接種について、ぜひかかりつけ医にご相談ください。

内科　詫間　隆博

HOSPITAL　INFORMATION

◆神奈川県内初、腎デナベーションの初症例を実施いたしました

当院では、難治性高血圧に対して高血圧専門医と熟練した技術を有する循環器専門医・心血管インターベンション治療専門医が密接に連携し、看護師・薬剤師・管理栄養士等とともにチーム医療を展開しています。

高血圧の原因精査、治療抵抗性高血圧の管理、臓器障害評価や薬物治療に加え、新規に健康保険適応となった血管内治療である腎デナベーション治療（RDN）の実施施設に認定されています。難治症例においてもRDNにより血圧管理の改善、降圧薬の減量が期待されます。

この度、神奈川県内初のRDN治療の初症例を実施いたしました。

今後もより一層高血圧治療へ貢献できるよう注力して参ります。

患者さんからのご意見・ご要望

ご意見・ご要望	回答
デイルームでの通話は8：00～20：00と決まっているのに、20：00以降も大きな声で電話をしている人がいます。 注意して欲しい。	この度は、ご不快な思いをさせてしまい、申し訳ありませんでした。いただきましたご意見は病棟スタッフ間で共有するとともに、今後は、通話可能時間外での通話が行われないよう、20：00以降の巡回体制を強化してまいります。 貴重なご意見ありがとうございました。（回答部署：看護部）

感謝の言葉	
入院中は大変お世話になりました。 主治医の先生をはじめ、看護師さん、ヘルパーさん、リハビリのスタッフの皆さまには、親切かつ丁寧に、そして何より明るく気持ち良く対応していただき、とても感謝しております。 本当にありがとうございました。 皆さまのご健勝と、益々のご活躍をお祈り申し上げます。	この度は、このような温かいお言葉をいただきありがとうございます。 いただきましたお言葉は、病院職員にとって何よりの励みとなっております。 今後も、患者さんの思いに寄り添いながら、安心して入院生活をお過ごしいただけるよう、より一層努めてまいります。 （病院職員一同より）
手術を明日に控え不安な前夜、夕食に「お祝い膳」を頂き、添えられたメッセージでその意味を知り、心がホッコリしました。 職員の皆さまから「頑張ってください」と応援のエールを頂いた思いがして、これからの療養生活の不便も乗り越えていこうと、改めて強く思いました。 ありがとうございます。	この度は、温かいお言葉をいただき、誠にありがとうございます。誕生日のお祝い膳が、療養生活への前向きなお気持ちにつながったとのこと、スタッフ一同とても嬉しく思っております。これからも、患者さんの心が和み、力となるようなお食事の提供に努めてまいります。 （※入院期間や提供日の都合により、お祝い膳をお届けできない場合もございます）（栄養科より）

編集後記

11月8日は「いい歯の日」です。80歳を超えても歯が20本以上あれば、食事をほぼ不自由なく楽しめるとされており、いつまでも美味しく、楽しく食べるために、口の中の健康を守ってほしいという願いが込められています。

秋になり、柿やきのこ、さつまいもなど、美味しい旬の食材が楽しめる季節になりました。栗ご飯や秋刀魚の塩焼き、かぼちゃの煮物など、秋ならではの味覚をいつまでも楽しむためにも、日頃から口腔ケアを大切にしましょう。また、歯がきれいだと笑顔もより素敵になります。美味しく食べるためにも、素敵な笑顔のためにも、「いい歯」をいつまでも大切にしていきましょう。

気がつけば今年も残り2か月です。慌ただしくなる前に、歯科検診や健康診断など気になっていることを確認してみてはいかがでしょう。　　リハビリテーション室　伊藤　めぐり

【受付時間・休診日】
受付時間/初診　月～土　8時30分～14時00分　※11時00分～14時00分は事前予約制です。
受付時間/再診　月～土　8時30分～17時00分　※当院の再診は予約制です。
面会時間　各病棟で異なります。詳しくはホームページをご確認ください。
休診日　日曜、祝日、創立記念日（11月15日）、年末年始（12月29日～1月3日）
ホームページURL：https://www.showa-u.ac.jp/SUHY/

【診療担当医表】

北部病院だより　第221号（2026年11月1日発行）　発行 昭和医科大学横浜市北部病院
発行責任者 坂下　暁子 (昭和医科大学横浜市北部病院長)　編集責任者　緒方　浩顕 (広報委員会 委員長)
〒224-8503　横浜市都筑区茅ケ崎中央35-1 電話045-949-7000(代表)
北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。